

経営戦略を聞く



日本精線 利光一浩社長

医療分野への仕掛け強化

当初計画比では増収増益を達成した。これは前々期に好調だった太陽光発電、ネル向けスクリン印刷用極細線の需要が落ち込んだことが要因だ。製品別では、主力のステンレス

ウハワが詰まった9割の「テスロンフィルタ」についてはほぼ横ばいで推移している。難のため、別素材に移行したと推察している。現状では、さらに細い7割の線の量産体制を確立できており、需要サイドで発電効率向上の優位性などが認められればステンレスへの回帰は十分見込める。なお、中国拠点の大同不銹鋼（大連）は現地経済の低迷などを受けて昨年11月に解散した。

「AIやデータセン」の金属繊維事業は、ネルの在庫調整に加え、スクリン印刷用メッシュ素材がステンレスからタンクステンに代替された影響で販売量が落ち込み収益を押し下げた。当社のノ

の「テスロンフィルタ」についてはほぼ横ばいで推移している。——今期は中期経営計画（24・26年度の最終年度。直近の業績と達成見通しを。26年4・6月期の売上高は前年同期比7・4%増の121億900万円、経常利益は81・7%増の8億7800万円、経営目標は「校方工場の建屋増築がこのほど竣工し、

ステンレス鋼線が国内トップシェアを有する大同特殊鋼グループの日本精線。主事業だけでなく、AIやデータセンター需要の急拡大を背景に半導体製造装置向けの超精密ガスフィルター「NASClean（ナスクリーン）」など独自製品で存在感をさらに増している。利光一浩社長に、前期の振り返りや今後の展開を聞いた。

——前期（2026年3月期）を振り返って。 466億100万円、経常利益は29・3%減の32億4100万円だった。前期比では減収減益となったが、年度

める。なお、中国拠点の大同不銹鋼（大連）は現地経済の低迷などを受けて昨年11月に解散した。

「AIやデータセン」の金属繊維事業は、ネルの在庫調整に加え、スクリン印刷用メッシュ素材がステンレスからタンクステンに代替された影響で販売量が落ち込み収益を押し下げた。当社のノ

の「テスロンフィルタ」についてはほぼ横ばいで推移している。——今期は中期経営計画（24・26年度の最終年度。直近の業績と達成見通しを。26年4・6月期の売上高は前年同期比7・4%増の121億900万円、経常利益は81・7%増の8億7800万円、経営目標は「校方工場の建屋増築がこのほど竣工し、

超精密ガスフィルター増強へ

しており、数年先に予想される次の需要サイクルに向けて超精密ガスフィルターの生産能力を高める先行投資を順次実施する。

——水素の分離・回収技術について。 「メチルシクロヘキサ（MCH）とアンモニア（NH₃）から水素を回収する小規模での実証試験を行っており、MCHは校方工場に実証用小型プラントを設置し、取り出した水素を熱処理工程で使用する。アンモニアからの水素回収は東洋エンジニアリングさんや中部電力さんなど共同で小型装置の開発に取り組んでいる。水素は輸送や貯蔵が難しい物質だが、MCHやアンモニアは取り扱いが比較的容易であり、小規模な工場や離島などでの活用を想定し技術確立を目指している」

——人材育成に関する取り組みは。 「35人、大卒枠5人、高卒枠15人の計20人を採用した。現場職の高卒枠はこれまで大阪府を中心に採用していたが、工業高校の減少や進学率の向上で確保が難しくなっているため、範囲を四国などに広げて採用活動を展開している。社内教育は、旧来の教育制度を全面的に刷新し『当社が求める人材像』をベースにどういった教育やアプローチが必要かを精査した上で、教育内容や体系を時代に沿った形に変えた。そのほか生成AIの導入で開発や営業、総務などの各部門が有効活用できる体制を整えており、製造現場は将来の人手不足を見越して省力・省人化や自動化に注力している」

（石橋 栄作）

※ 本記事は(株)産業新聞社の承諾を得て掲載しており、著作権は(株)産業新聞社に帰属します。